あとがき

◆『アジア・キリスト教・多元性』第４号をお届けします。

この研究雑誌は、研究会「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」（通称、「アジアと多元性」研究会）の一年間の活動報告として刊行されているものであり、まず、このように号を重ねることができたことについて、論文を執筆いただいた方々、またほかの研究会メンバーの方々にお礼を申し上げたい。

◆本研究会のこの一年の活動については、本号の「研究会の活動内容（2005年度）」あるいは研究会のホームページをご覧いただくことにして、ここでとくに述べておきたいのは、『比較宗教学への招待―東アジアの視点から―』（晃洋書房）の刊行と本研究会との関わりについてである。この書籍は－2006年3月に刊行予定であり、おそらく、本号がお手元に届く頃には、すでに書店の店頭に並べられているものと思われる－、その執筆者の多くが本研究会のメンバーであることからもわかるように、本研究会の共同研究の成果（本研究会メンバーによる共著）と呼ぶに相応しいものである。とくに、第Ⅱ部の各章は、本研究会における研究発表をもとに執筆されており、2005年度の研究会活動のかなりの部分は、『比較宗教学への招待』の執筆準備のために使われた。研究会を代表する者として、ぜひ、多くの方々にこの共著をご高覧いただき、率直なご意見を伺うことができれば幸いである。なお、『比較宗教学への招待―東アジアの視点から―』は、本研究会の研究成果であると共に、研究会「多元的世界における寛容性についての研究」（21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」内の研究班）の主催による国際シンポジウムの成果でもある点を申し添えておきたい。

◆本研究会は、研究会メンバーそれぞれの個人研究の発表の場であるとともに、共同研究の様々な具体化を目指し、年度末の研究雑誌『アジア・キリスト教・多元性』の刊行を軸に活動を進めてきている。このような研究会活動は2006年度も基本的に変わりなく継続されるものと思われるが、可能ならば、個々人の個別的な研究を積み上げ、集積するだけでなく、何か共通のテーマに関わる共同研究についても取り組んでゆきたいと考えている。これは、アジアのキリスト教あるいは宗教をめぐる研究は、きわめて多岐にわたる広範な問題連関を含んでおり、一定規模の研究者集団による共同研究として行われるべきものであるとの認識に基づいており、まさに本研究会の目的は、こうした共同研究の場となることだからである。たとえば、『アジア・キリスト教・多元性』の次号を、統一テーマについての特集号にすることも考えられるであろう。いずれにせよ、肝心なことは、研究会メンバー各自の研究の活性化であって、本研究会としては、それに相応しい場が提供できるよう、いっそうの充実を期したい。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、ぜひわたくしたちの研究会に参加いただきたい。

◆最後に、本雑誌の発行にご協力いただいた方々に感謝申し上げたい。今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力をいただければ幸いである。

2006年3月

研究会代表
芦名　定道